

合唱（２）

音楽教育講座：楠 俊明

1. 授業の目的

授業の目的は、「音楽に関する職業を希望する者として、必須の教養としての合唱や合唱アンサンブルの指導法や表現方法を理解し、様々な音楽表現ができる能力を見につける。」である。

2. 授業の到達目標

- ハーモニーを感じて豊かな演奏をすることができる。
- 他者と音楽性豊かにアンサンブルを行うことができる。
- アンサンブルの楽しさを聴き手に伝えることができる。

3. 授業の位置づけ

合唱（２）は後期開講、１～４回生２８名の受講生である。小サブ、中等音楽、他学部生等、様々な学生が歌うこと、声を合わせることの追究のために受講している。

前期の合唱（１）で教師としての合唱指導の在り方やコンクール指導方法等について学習を進めた。それらを活かして自分たちが合唱を表現していく講座である。

そのため、ミュージカルを合唱風にアレンジして、その発表に向けて活動内容や授業方針を共有して授業を進めた。今年度の教材は、「レ・ミゼラブル」である。しかしながら、コロナ禍で事前準備を進めることができず、後期授業が始まってから配役を決めて練習を進めたため、予定していた１２月公演への取組が慌ただしいものとなった。その取組予定を次のように設定した。

- １０月：音取り完成
- １１月：暗譜完了
- １２月：動き・演出練習
- １２月２４日：最終授業
- １２月２５日：リハーサル（補講）
- １２月２６日：公演本番（南加記念ホール）
- ２月：附属公演

4. 指導のポイントと実際

指導は次の４つにポイントを置いて進め、発表に向けて意識を高めていった。

- ① 遠くに響く声でありながら、ハーモニーを奏でる声を目指す。
- ② 舞台での表現であるため、顔の表情をしっかりと伝えるように歌う。
- ③ 動きのある部分はその動きの必然性を感じさせて表現する。
- ④ 言葉がしっかりと伝わるように発音するとともに、その意味を伝える表現をする。

この４つのポイントをクリアするために、それぞれのナンバーの意味や価値、大切な言葉やメロディーの表現方法を考えさせながら指導を進めた。特に、④の言葉をどのように伝えるかを大切に指導を進めた。更に、公演時間が８０分以上あるため、通して練習することは難しい。授業内では全体でのハーモニー練習や動き練習を中心に進め、個人的な練習は補講で実施した。

１２月２６日、出演者の関係者のみの観客前提で、大学（南加記念ホール）でのミュージカル公演を行うことができた。多くの方々から賞賛のお言葉をいただき、学生達も満足して附属公演練習へと授業を進めた。

しかし、コロナ禍で２月の附属公演ができなくなったため、後半の附属公演の練習もできず、グループ発表テストで授業を終了した。

5. 授業時間外の学習

この授業だけでは公演にならないことを自分たちで考え、週１回程度集まって合唱の練習を進めていた。もちろん、常に全員が集まることはないが、仲間と時間を工夫して、自分だけではできない音の確認やハーモニーの取り方、動きや表情等を協力しながら学習していた。

また、ミュージカル公演では子役も必要で

あるため、附属小学校の土曜学習と絡み合わせながら、学生達も土曜学習に参加してミュージカルの練習を進めながら、小学生への指導方法等を学ぶことができた。

6. 授業アンケートと考察

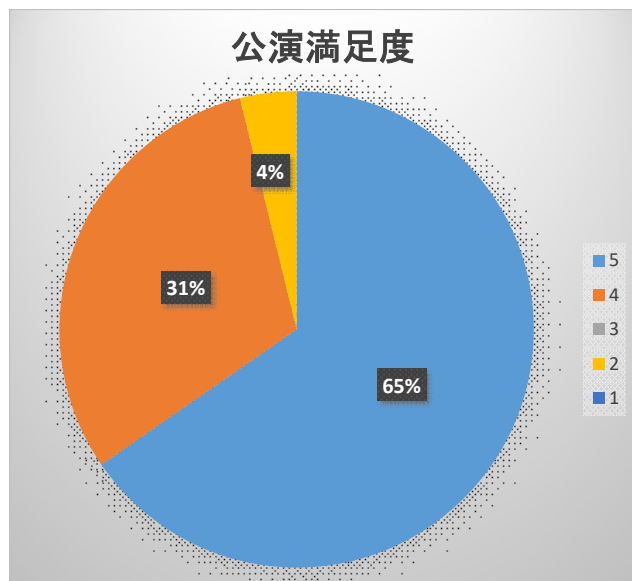
公演終了後、授業と公演についてのアンケートを次のような7つの項目で実施した。

- ① 公演の満足度
- ② 授業や練習方法について
- ③ 公演の日程や時間について
- ④ 自分の当日の出来映え
- ⑤ 衣装や大道具・小道具について
- ⑥ 音響や照明について
- ⑦ コロナ禍対応について

それぞれの項目について5段階で評価させた。(5：大変よい、4：よい、3：普通、2：あまりよくない、1：よくない) また、その理由を自由に記述させた。

アンケート結果と、学生の記述から、それぞれの項目について考察する。

① 公演の満足度

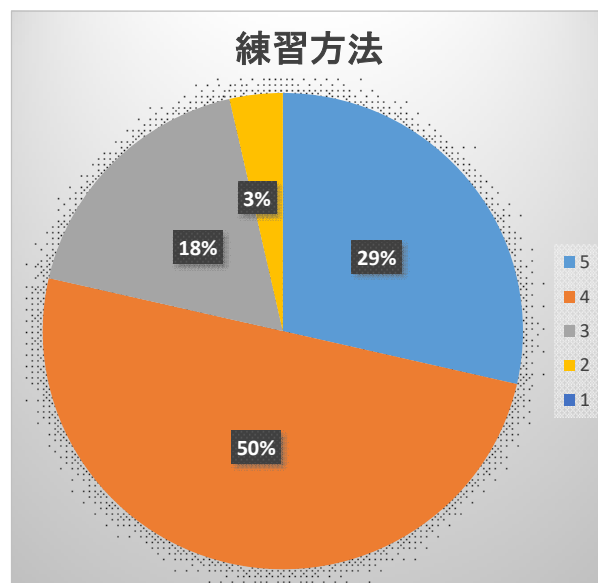


多くの学生が今回の公演に満足している。この公演を通して、音楽の面白さや深さ、歌うことの楽しさや難しさを感じた学生が大勢いた。授業の発表の場としての公演であったが、十分満足できるものであったと言える。昨年度はコロナ禍で公演は一度もできなかったため、その反動としての喜びもあったと考える。また、4回生は是非続けて行って欲しい

との希望が多かった。特に、仲間と音楽を表現することの意義や、その成果を見てもらうことの大切さ等が多く意見であった。

しかし、1名だけミュージカルには自分は向いてないので、合唱だけの発表がしたかったと自分の思いを書いていた。

② 授業や練習方法について



8割程度は授業やその他の練習について満足しているが、2割は様々な面で難しいことがあったようだ。

満足した理由は短い期間で集中して行ったが、みんなで協力して出来上がっていったので良かったと感じている学生が多い。ソリストがだんだんと出来上がっていくことに喜びを感じたり、次第に自分がミュージカルの世界に入っていくことが楽しかったりしたようである。

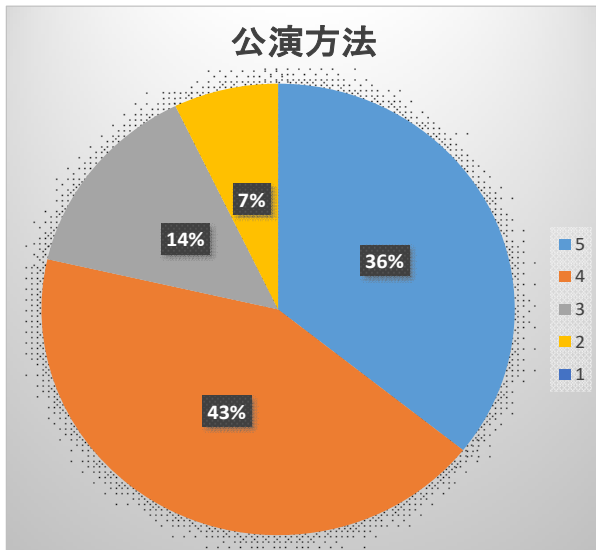
満足しなかった理由としては、授業でできないところの週一回の補講(自主練習)に参加できないことが多かったため、もっと参加する方法を考えたいという意見が多かった。

練習方法としては、衣装や小道具の準備が遅かったため、本番近くになって考えなければならないことが多く大変であった。早くから準備したかったという意見も多かった。また、全体練習が多かったので、授業の中でパート練習があると、時間がもっと有効に使えてという意見もあった。

コロナ禍で様々な準備や進行が遅れたことが、練習方法等の満足度に大きく関与してい

ることがわかった。

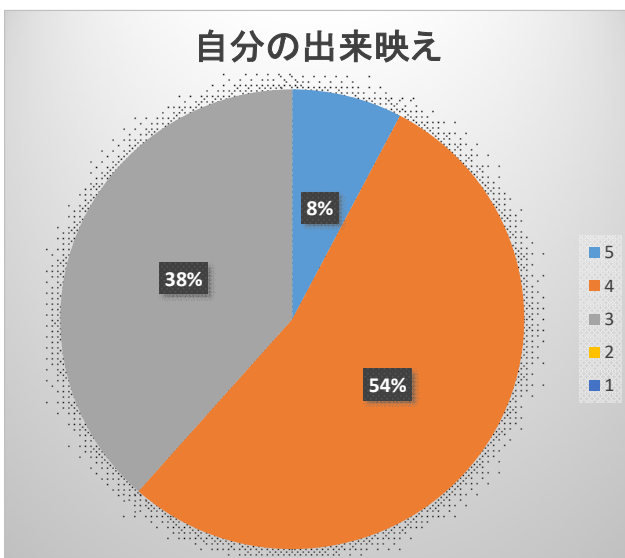
③ 公演の日程や時間について



8割程度が満足している。前々日準備、リハーサル、ゲネプロと時間がとれたことが良かったようである。ただ、クリスマスの時期で少し寂しかったという意見と、都合で2名本番だけ出演できない学生がいたことに問題があったようである。早くから連絡していたが、バイトの時間との絡みが難しい学生も多かったようである。

日程を決めることは、南加記念ホールの空き状況もあるため、本当に難しいが、早くから連絡することで予定を考えてもらうしかない。

④ 自分の当日の出来映え

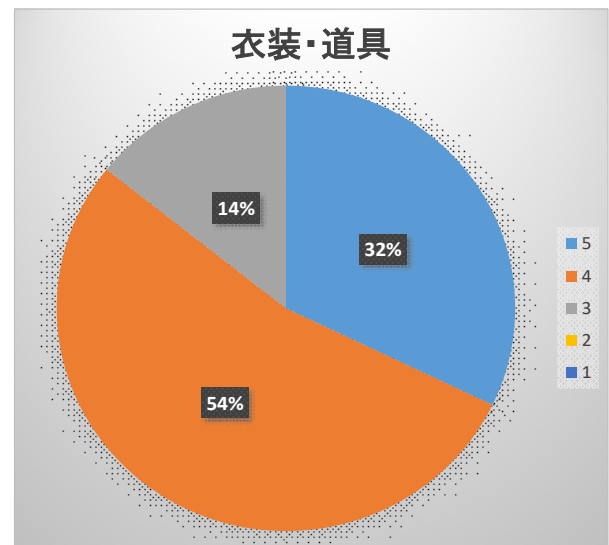


6割程度が満足しているが、大変満足した学生は2名で自分に厳しく、さらに歌唱力を伸ばしたいと考えている学生が多かった。

短い練習でここまでできたことに満足しているが、もっと表情や仲間との絡み合いをうまく表現したいと考えているようである。

また、土曜学習で練習した小学生ともっとうまくつながりが表現できるとよかったや初めての舞台なので出来映えを自己評価することが難しかったという意見があった。

⑤ 衣装や大道具・小道具について

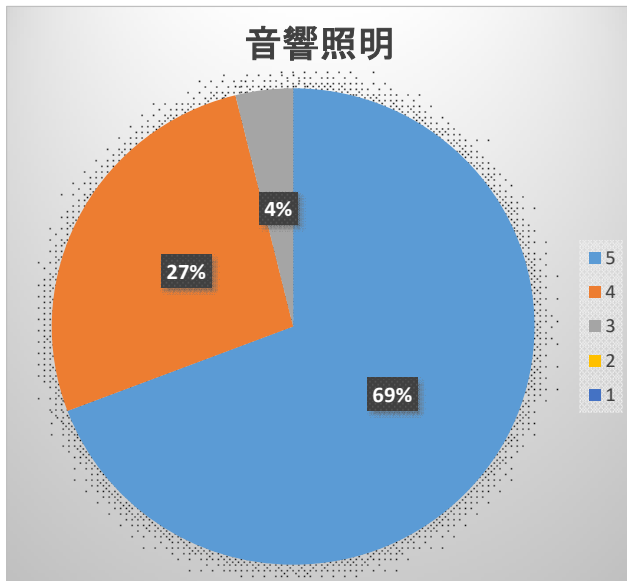


衣装や大道具小道具については多くの学生が満足している。その理由として、大道具や小道具は前回公演（4年前）のものを残していたため作成する時間を費やすことがなかったからだと考える。毎年、この大道具・小道具作りに時間を費やす苦労があったが、今年はほとんどが前々日準備で仕上げただけである。まあ、この苦労も大切なのであるが、授業の成果発表の場であると考えればこれで良いのかもしれない。

しかし、小道具についてはリハーサルで初めて使った学生もいたので、そこに少し戸惑いがあったようである。小道具を早くから使って練習したかったと記述している学生もいた。

衣装に関しては、経験のある4回生が中心となって早くから個々で準備させていたのであまり問題はなかったようである。それぞれの役に合う衣装を考えて物語の雰囲気大切にしたいと記述している学生もいた。

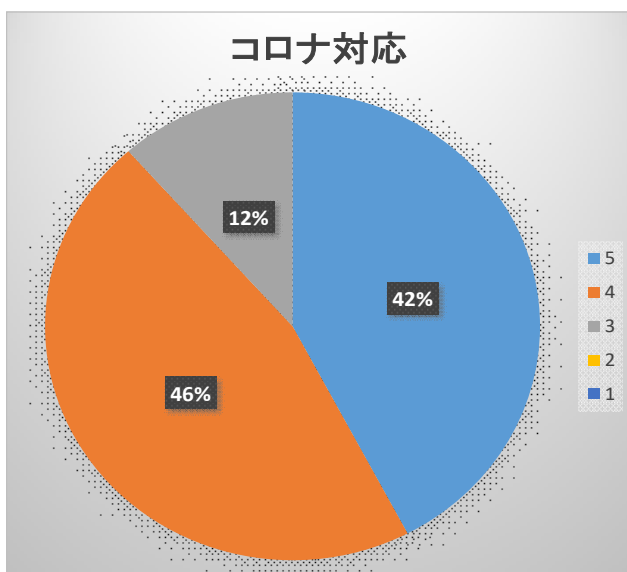
⑥ 音響や照明について



ほとんどの学生が満足している。学生が自分の知り合いにお願いして、音響や照明は準備やリハーサルから手伝っていただいた。本当にこれには感謝しかない。前日リハーサルから初めてのワイヤレスマイク使用であったため、その使用方法や対応に時間を費やしている学生もいた。

また、伴奏はオーケストラ風にエレクトーンとエレキピアノとパーカッションで行ったが、満足いくものとなった。ピアノは受講生が弾いたが、エレクトーンは毎年お世話になっている先生で、パーカッションは学生の知り合いで、本当に素晴らしかった。

⑦ コロナ禍対応について



コロナ禍対応についても多くの学生が満足している。出演者は表情を見せるためにマスクシールド着用、観客と演奏者や裏方等はマスク着用、観客は一席開けての着席で対応した。問題なく進行することができた。

演出もなるべく向き合うシーンは向き合ったあと、前を向いて話したり、歌ったりするように心掛けた。

観客人数対応のため、出演者が3人以内で制限をしたため、もう少し多くの方々に見て欲しかったという意見もあった。観客のアンケートからも「すばらしいのに、この人数の観客数ではもったいない。」というコメントがあった。

7. 地域とのつながり

学生の活動が松山市内、愛媛県内の方々に発信できるように公演コマーシャル等を行いたかったが、コロナ禍の状況で多くの方々への発信を行うことができなかつた。また、附属小中学校での公演を2月末に予定していたが、コロナ禍で中止となってしまった。今後の課題である。

しかし、学生の知り合いを招いたことで、愛大生仲間は十分に満足して鑑賞できたことはアンケートから察知できた。授業の成果の発表の場としての価値は十分に満たされた気がする。鑑賞後の観客のアンケートの一部をする。

- ・初めてレミゼラブルの物語を知りました。とても面白かったです。最後のシーンは感動して泣きそうになりました。(21歳愛大生)
- ・短い練習期間と言われていましたが、合唱や演出とても素敵でした。(21歳愛大生)
- ・レミゼラブルの世界に引き込まれました。出演者それぞれがちゃんとその役割の表現をしていて、感情移入しながら見ることができました。すごかったです。(21歳愛大生)
- ・久々に生の歌が聴けて感動しました。一生懸命演じていて良かったです。歌声が心に届きました。(51歳女性)
- ・出演される方々の顔もよく見えて、心温まる素敵な公演でした。コロナ対策をして開催しており、安心してみることができました。(46歳女性)
- ・映画で見たときより胸にくるものがありました。素晴らしかったです。歌、ナレーション、演技、全て最高でした。(24歳愛大生)

・ハーモニーがとてもきれいで思いが伝わってきてとても感動しました。ミュージカルって良いものですね。日々のことを忘れさせてくれました。ありがとう！（21歳愛大生）

・短期間の練習とは信じられないクオリティでした。歌声が素晴らしかったのはもちろん何もかも想像以上のレベルの高さで圧巻でした。素敵な公演をありがとうございました。本当にたくさんの人に見て欲しい、見るべきものだと思います。（20歳愛大生）

・プロのミュージカルかと思うくらい公演のレベルが高く、大変驚きました。今までミュージカルにはあまり興味がなかったのですが、今日をきっかけに興味をもちました。もっと見たいと思うくらい素晴らしかったです。レベルが高かったので、もう少し大きい会場でたくさんの人に見てもらっても良いのではないかと思います。（21歳愛大生）

・物語に引き込まれました。歌もテンポもよく、楽しめ、感動しました。もう一回見たい気持ちになりました。（52歳男性）

・みんな大変上手で坊っちゃん劇場に行ったようで涙が出ました。感動をありがとうございました。（78歳男性）

多くの方々から感動の言葉をいただき、この公演の意義は十分に果たされた気がする。悔いが残ることは、小中学生に見せることができなかったことである。

8. 終わりに

この授業の到達目標は以下の3点であった。

- ①ハーモニーを感じて豊かな演奏をすることができる。
- ②他者と音楽性豊かにアンサンブルを行うことができる。
- ③アンサンブルの楽しさを聴き手に伝えることができる。

①については個々の出来映えや能力差は多少あるが、公演を通して全員が達成できたと考える。しかし、多くの仲間との重なりによってハーモニーを作り上げることができたと考える。それは、テストで個人重唱を行うとなかなかハーモニーがぴったりと合わせることができない学生もいたからである。

②については、短期間の練習でありながら一人一人が仲間と良い音楽を作っていこうとすることができたようである。

③については、この公演の観客からの言葉によると達成できたと考えられる。ミュージカル出演初めての学生もこの公演で観客に鑑賞していただき、自分の役割を演じ伝えることに十分満足していたようである。

授業全体では到達目標に叶っているが、個々で考えると、学生の自己評価にあるように歌唱力や発声についてもっと考えていきたいと願っている学生も多い。その点が解決できるように、他の歌唱授業との関連やこの授業における個々の取組の在り方について考えていきたい。

この公演では、土曜学習で学んだ小学生も楽しく取り組み、自分たちの仲間達に発表することを望んでいたが、コロナ禍第6波によって2月の附属公演が叶わなかったことが大変残念である。しかし、12月の大学公演に向けて音楽を楽しみ、人に伝えていく面白さを体感していく変化や成長を感じ取ることができた。また、男声が少ないため附属小学校の男性教員もメンバーとして加わっていただいたことに大きな意味があると思った。3年生以上の学生が、実習生としてお世話になった先生と同じ舞台で仲間として表現できることに微笑ましさを感じた。授業の成果発表の場において附属校園の先生方と共演することで、更に深いつながりができていくと思っている。この点は、様々な方法を考えながら来年度も考えていきたい。

最後に、この公演はコロナ禍で自粛や規模縮小を余儀なくされた交流や体験を支援する県の令和3年度スポーツ・文化芸術活動等創出支援公募事業として認められ、公演資金を補助していただいた活動となった。